

- 問1 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問2 桓武天皇から命を受け、蝦夷を服属させるために派遣された武将は誰？
- 問3 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？
- 問4 平等院鳳凰堂などの建築に影響を与えた、阿弥陀仏にすぎる信仰を何という？
- 問5 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問6 平安時代中期、天皇が幼いときに補佐する役職を何という？
- 問7 平安時代に瀬戸内海地方で海賊を率いて反乱を起こした人物は誰？
- 問8 平安時代に国風文化が発展するきっかけとなった、中国へ使者を送る制度の終了を何という？
- 問9 平将門が乱の中で自らを称し、独立した政権を立てようとした称号は何？
- 問10 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問11 平安時代、父・道長の別荘を寺院に改め、宇治に平等院鳳凰堂を建立した人物は誰？
- 問12 平安時代末期に厳島神社の社殿を整備した武士は誰？
- 問13 平安時代、紀貫之に最初の勅撰和歌集の編纂を命じた天皇は誰？
- 問14 平安時代中期、天皇の後を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問15 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？
- 問16 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問17 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？
- 問18 平安時代に発達し、日本の物語文学が発展するきっかけとなった、日本語の音を書き表す文字を何という？
- 問19 平安時代末期、武士として初めて任命された最高位の官職を何という？
- 問20 清少納言が記した、宮廷の生活や自然について独自の感性で書きつづった日本を代表する文学形式は何？
- 問21 平安時代後期に藤原氏の栄華の象徴として平等院鳳凰堂を建立した、当時の政治の実権を握っていた人物は誰？
- 問22 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？
- 問23 794年、奈良の平城京から都を現在の京都へ移し、新しい都を建設した天皇は誰？

## 答え合わせ・解説

|     |                            |                                                                                                                                                             |
|-----|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | <b>答え</b><br><b>紫式部</b>    | 紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。                                                                         |
| 問2  | <b>答え</b><br><b>坂上田村麻呂</b> | 坂上田村麻呂は、桓武天皇により「征夷大將軍」に任命され、大規模な軍を率いて東北へ向かいました。彼は蝦夷の指導者であった阿弭流為らを降伏させ、朝廷の支配圏を現在の岩手県あたりまで拡大させました。                                                            |
| 問3  | <b>答え</b><br><b>遣唐使廃止</b>  | 894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。                                   |
| 問4  | <b>答え</b><br><b>浄土信仰</b>   | 浄土信仰は、「南無阿弥陀仏」と唱えることで、死後に阿弥陀如来のいる極楽浄土へ生まれ変わることができるという教えです。貴族たちの間で広まり、平等院鳳凰堂のような豪華な阿弥陀堂が建立されるきっかけとなりました。                                                     |
| 問5  | <b>答え</b><br><b>仮名文字</b>   | 仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。                                              |
| 問6  | <b>答え</b><br><b>摂政</b>     | 摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。                                                                   |
| 問7  | <b>答え</b><br><b>藤原純友</b>   | 藤原純友は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。同時期に関東で平将門が起こした乱と合わせて「承平・天慶の乱」と総称されます。海と陸の二大拠点で同時に反乱が起きたことは、朝廷の地方支配の弱体化を如実に示しました。                         |
| 問8  | <b>答え</b><br><b>遣唐使の廃止</b> | 遣唐使の廃止は、中国の文化に直接頼る時代から脱却する転換点となりました。これにより、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が重視されるようになりました。                                                                                 |
| 問9  | <b>答え</b><br><b>新皇</b>     | 平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真っ向からの挑戦を意味していました。                                                         |
| 問10 | <b>答え</b><br><b>浄土信仰</b>   | 浄土信仰は、阿弥陀仏を信じ、その名（南無阿弥陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿弥陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしました。平等院鳳凰堂はその代表例です。                        |
| 問11 | <b>答え</b><br><b>藤原頼通</b>   | 藤原頼通は、権力の絶頂期にあった藤原道長の息子です。1052年、彼は父から譲り受けた京都・宇治の別荘を寺院へ改め、平等院を建立しました。これは、当時の貴族たちが願った極楽浄土の姿を現世に再現しようとする試みでした。                                                 |
| 問12 | <b>答え</b><br><b>平清盛</b>    | 清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。                                                       |
| 問13 | <b>答え</b><br><b>醍醐天皇</b>   | 醍醐天皇は学問や芸術を尊重し、多くの文人を重用しました。905年、彼は紀貫之らに命じて、それまでの和歌を集めた日本初の勅撰和歌集『古今和歌集』を編纂させました。この事業は、日本の文学史において非常に重要な出来事です。                                                |
| 問14 | <b>答え</b><br><b>藤原氏</b>    | 藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。                                                                    |
| 問15 | <b>答え</b><br><b>中尊寺金色堂</b> | 中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。                                                              |
| 問16 | <b>答え</b><br><b>真言宗</b>    | 真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。                                |
| 問17 | <b>答え</b><br><b>桓武天皇</b>   | 桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。                                                                    |
| 問18 | <b>答え</b><br><b>かな文字</b>   | かな文字は、漢字の一部を省略したり、崩したりして作られた文字体系です。平安時代になると、この文字を使って自分の感情や日常を表現することが貴族社会で流行しました。これにより、漢文のような堅苦しい文章だけでなく、感情豊かな日本語による文学が発展しました。                               |
| 問19 | <b>答え</b><br><b>太政大臣</b>   | 1167年に平清盛がこの地位に就きました。武士が朝廷の最高職に就くことは当時としては異例のことであり、平氏一族が貴族社会の中枢に深く入り込んだことを示しています。                                                                           |
| 問20 | <b>答え</b><br><b>随筆</b>     | 随筆（エッセイ）は、決まった形式にとらわれず、作者が思ったことや見たこと、季節の移り変わりなどを書き記す形式です。清少納言の『枕草子』はその代表格であり、彼女の鋭い視点やユーモア、時には批判的な意見なども書き込まれています。かな文字が使われたことで、日本語特有のリズムや情緒を豊かに表現できるようになりました。 |
| 問21 | <b>答え</b><br><b>藤原頼通</b>   | 藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿弥陀如来像を安置させました。                        |
| 問22 | <b>答え</b><br><b>法華経</b>    | 法華経は、天台宗が最も重視する経典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの経典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。                        |
| 問23 | <b>答え</b><br><b>桓武天皇</b>   | 桓武天皇は、こうした古くからの仏教勢力の強い影響を断ち切り、天皇中心の強力な政治を行うために遷都を断行しました。まず長岡京への遷都を試みましたが、工事の難航や不祥事により中止し、新たに平安京を建設しました。平安京は四神相応という風水思想を取り入れた計画的な都市として設計されました。               |